

ーアジア共通の GAP のプラットフォームづくりを目指してー

## ASIAGAPのGFSI承認申請を行いました

一般財団法人日本 GAP 協会（代表理事：荘林幹太郎）は、GFSI Benchmarking Requirements Version7.1 に対応した日本発の GAP 認証である ASIAGAP で、GFSI に対する承認申請を行いました。その概要は次の通りです。

### ◆ GFSI 承認申請の概要

- ・申請を行った認証スキーム：ASIAGAP Ver.2（セクター：B、D）  
基準文書：ASIAGAP Ver.2 青果物、穀物、茶  
ASIAGAP Ver.2 総合規則 2017
- ・申請を行ったカテゴリ：B I（植物の生産）、B II（穀類・豆類の生産）、D（植物性食品の前処理）

### ◆ カテゴリ B I、B II、D に係る運用実績

- （1）契約認定機関（申請条件：1 機関以上）
  - ・公益財団法人 日本適合性認定協会
- （2）契約認定機関より認定を受けた契約認証機関（申請条件：2 機関以上）
  - ・インターテック・サーティフィケーション 株式会社
  - ・株式会社 北海道有機認証センター 北海道 GAP 認証センター（略称 ACCIS）
  - ・一般社団法人 日本能率協会 審査登録センター（略称 JMAQA）
- （3）契約認証機関より認証を取得した組織（申請条件：10 組織以上）
  - ・B I 及び D カテゴリ：94 組織（1,049 農場）
  - ・B II 及び D カテゴリ：12 組織（37 農場）
 ※2017年11月時点

問合せ先：荻野（おぎの） TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: [info@igap.jp](mailto:info@igap.jp)

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAX または E-mail で送付ください。）

|     |      |     |
|-----|------|-----|
| 御社名 | 部署名  | 御名前 |
| 住所  | 電話番号 |     |

### ◆ 本申請の意義と今後

日本 GAP 協会は、中小規模の農家が多く、稲作が盛んであるなど日本の農業の特徴に対応して開発・運用してきた JGAP を基に、昨年 9 月 JGAP Advance の開発・運用を開始しましたが、本年 8 月 GFSI Benchmarking Requirements の新たな版 (Version7.1) に対応する改定を行うとともに名称を ASIAGAP に改名しました。

ASIAGAP は、国際的に認知され、アジアを中心に活用されるよう GFSI 承認の取得をめざしており、本申請はそのためのスタートとなります。

今後は、GFSI の定めるベンチマーキングプロセスに従って、申請に対する審査が進められることとなります。

#### (参考 1) GFSI について

GFSI (Global Food Safety Initiative : 世界食品安全イニシアティブ) とは、食品安全の向上と監査コストの適正化を目的とした民間事業者による国際的な組織です。世界にある多種多様な食品安全マネジメントスキーム間の等価性を図るためのプログラムである GFSI Benchmarking Requirements を運用しています。これに基づき現在 GFSI の承認を受けている GAP 若しくは GAP を含むスキームは、Primus GFS、GLOBALG.A.P.、CANADA GAP、SQF です。

#### (参考 2) 一般財団法人日本 GAP 協会について

日本 GAP 協会は、世界に通用する日本の本格的な第三者認証の GAP を創り、普及することを目的として 2006 年より活動してきました。ASIAGAP と JGAP の 2 つの GAP 認証制度を運営しており、両者を合計した認証農場数は 4,113 農場です (2017 年 3 月末現在)。また、これまでの青果物、穀物、茶に加え、新たに JGAP 家畜・畜産物の運用も開始しています。

※ ASIAGAP に関する情報は、日本 GAP 協会の Web サイト、日本における GAP 全般に関する現状や政策等の情報は、農林水産省の Web サイト (農業生産工程管理 (GAP) に関する情報) をご覧下さい。